

語弊があるかもしれないが、小さな山村、漁村ならばそれでも大きな問題は起きないかもしれない。しかし大津は「終の棲家」を求める多くの人々が今も移り住む活気あふれる街（シティ）だ。「郷に入らば郷に従え」とばかりに、「ルール」とすら言えないような古い「村の掟」が押しつけられる理由などない。ましてや一部の地域ボスによる税金の私物化など許されるはずがない。

行政との関わり方を含めて、コミュニティーのルールは今そこに住む住民たちが自主的に考え、決めるべきものだ。極端な街「大津」で、行政（市長）と地域ボスの間にある暗く深い闇を暴き続ければ、同じように歪んだ地域コミュニティーを養い、利用する全国の自治体にショックを与えることになる。

4月には統一地方選も行われる。自治体の意思決定という役割を半ば放棄した市議たちに対してもこの問題を突きつけてほしい。そうした活動を続けるほど、この街の風通しは良くなる。私も大津に似た関東のベッドタウンで生まれ育った。歪んだ地域コミュニティーの「暗闇」と闘い続ける自治会オンブズに共感している。微力ながらこれからも応援していきたい。